KOCHO だより (118)

令和６年(2024 年)１月５日

YIC 調理製菓専門学校長　須内章雅
Sunouchi Akimasa

○ 韓国だより 2024

毎年楽しみにしている韓国からの年賀状が今年も届きました。紙面にて紹介します。この年賀状のいきさつについては下に記述しています。ちなみにこの記述は KOCHO だよりを書き始めた 2013 年の第２号に掲載したものです。手紙にはいつも温かい内容の近況が綴られていましたが、今年の手紙には「姉と兄はあの世に旅立ってしまいました。」との記述があり、寂しい気持ちになりました。しかし出会ってから十数年、ご本人もすでに 100 歳に近いのではないかと思います。ご健康をお祈りするばかりです。

○　ふるさとへの思い

以前勤めていた学校でのこと。ある日突然、８０歳前後と思われる男女４名が玄関に立ち寄られました。「卒業生名簿があったら見せてほしい。」　対応に当たった私は、この方々がどんな用件で来られたのか分からず、“個人情報”ということも頭にあり、どのようにして断ろうかと考え始めました。　会話を続けている内に、アクセントがちょっと変わっているなと気づき、聞いてみると、韓国からのお客さんということが分かりました。

校長室に入ってもらって詳しく事情を伺うと、次のような内容でした。

７０年近く前まで、この中学校の校区内に住んでいたが、事情により韓国に帰ることになった。そのとき、家族全員ではなく、一番上の兄は「自分は日本に残り、がんばる。」ということで、その時に別れた。それ以来連絡が途絶えていたが、生きている内に一度会っておきたい。来てみたら学校があったので、尋ねたら何か手がかりがつかめるかもしれない。…

地域のことに詳しい人を探し、紹介して私の対応は終わりました。その後のことをあとから聞いてみると、…　住んでいた場所に行ってみた。建物もなく、雰囲気も変わっていたが、井戸の場所などを確認し、なつかしく思った。ある学校の卒業生名簿にお一人の名前が載っていた。記憶に現実がつながった。などなど、…　紹介が紹介をつなげ、地域の温かい心遣いにふれながら、よい旅を過ごされたようでした。

その後、私の元には２度、お礼状と今年の年賀状が届きました。私自身はたいしたお世話はできませんでしたが、感謝の気持ちを丁寧に伝えてこられる誠実さに心が温まりました。

日本語が話せ、理解できる人はお一人でした。「７０年近く使っていなかったから、私も忘れてしまったが、この旅行のために勉強して使えるようにしてきた。」とのこと。ふるさとへの思いを強く感じる出来事でした。　わたしがいろいろなことを学習したうちの一つです。

○ 自友自賛　　上記のとおり